

2021年度 事業報告書

2021年4月 1日から

2022年3月31日まで

学校法人 椋橋学園

1. 法人の概要

名 称 学校法人 棕橋学園（昭和56年7月25日法人設立）

代表者 理事長 川辺 浩之

住 所 豊中市庄本町1丁目2番4号

電 話 06-6332-3110

FAX 06-6332-3207

設置する学校

住 所 豊中市庄本町1丁目2番4号

名 称 庄本幼稚園

役 員 理事 6名 ・ 監事 2名

評議員 13名

理事会 4回開催

評議員会 3回開催

職 員 11名

2. 事業の概要

（ 庄本幼稚園 ）

《教育方針》

神社境内地、緑いっぱいの環境の中で集団生活を行うことにより、基本的な生活習慣を身につけ、思いやりのある、元気で素直な子どもを育てる。

《教育内容》

子ども達の可能性を求めて、ECC英会話レッスン、スイミング教室、ヒップホップダンスなどを正課とし、勉強・音楽・運動をバランスよく保育に取り入れている。少人数の園ならではの目の行き届いた教育・指導を行い、異年齢間の遊びや行事により、集団生活のルールと思いやりの心を育てる。

《園児数》

	3歳児		4歳児		5歳児		クラス数計	園児数計
	クラス数	園児数	クラス数	園児数	クラス数	園児数		
定員	1	25	1	35	1	35	3	95
2020年度	1	23	1	17	1	21	3	61
2021年度	1	27	1	23	1	17	3	67
2022年度	1	21	1	27	1	23	3	71

《保育時間》

月～金曜日 午前9時～午後3時

第1・第3土曜日 午前9時～午前11時30分

《納付金等毎月の費用》

保育料	年額300,000円(12分割均等納付)
絵本代	月額440円～450円(4月, 8月を除く)
暖房費	年額2,000円(12月にまとめて納入)
プール代	1回680円×週1回×3～4週/月
バス遠足代	1回700～1,000円程度(年2回)
給食費	1食300円×週5回×3～4週/月
スクールバス	月額2,600円(片道1,300円)
保護者会費	月額1,000円

《入園時の費用》

入園料	60,000円
施設費	10,000円

《預かり保育の内容及び費用》

平日	午前7時30分～保育開始時・保育終了時～午後7時	
	午前7時30分～保育開始時	200円/回
	保育終了時～午後5時	400円/回(月極め 6,400円)
	保育終了時～午後6時	600円/回(月極め 9,000円)
	保育終了時～午後7時	800円/回(月極め12,000円)

土曜日・園が定めた休園日・春休み・冬休み(年末年始除く) 午前7時30分～午後7時

午前7時30分～午前8時30分	200円/回
午前8時30分～正午	600円/回
午前8時30分～午後3時	1,100円/回
午前8時30分～午後5時	1,500円/回
午前8時30分～午後6時	1,700円/回
午前8時30分～午後7時	1,900円/回

夏休み平日 午前7時30分～午後7時(お盆を除く) 午前7時30分～午後7時

午前7時30分～午前8時30分	200円/回
午前8時30分～正午	300円/回
(午前中のみ月極め 7月1,000円、8月2,000円)	
正午～午後3時	300円/回
正午～午後5時	600円/回
午前8時30分～午後3時	1,100円/回
午前8時30分～午後5時	1,500円/回

午前8時30分～午後6時 1, 700円/回

午前8時30分～午後7時 1, 900円/回

《主な行事》

春の親子遠足、個人懇談、保育参観、七夕まつり、一泊保育、大運動会、秋の遠足、草木あそび、おもちつき、クリスマス、作品展、なわとび大会、カルタ大会、おゆうぎ会、ひなまつり、野菜作り等

《未就園児事業実施状況》

二歳児クラス（満二歳より入会のプレ幼稚園クラス）

毎日コースと週二日コースの選択

保育所と同じ保育士配置構成

《施設関係》

園地面積 1, 231㎡ 運動場面積 513㎡

《設備関係》

デジタルカメラ購入

《借入金関係》

北おおさか信用金庫からの借入（グラウンド整備工事資金）を一部返済した。

《その他修繕等》

なし

《事業報告》

2021年度も新型コロナウイルスの影響があったが、前年度に引き続き行事等保育の内容を変更しながら保護者の協力を得て役職員の真摯な努力により、着実に運営することができた。

昨年11月から年明けまでは第5波が収まり、社会・経済活動の再開で進展するかと思われたが、1年半ばより感染力の強いオミクロン株の第6波が全世界に拡大し、わが国においても驚くような感染状況が続き、新年度に突入した。

更に、冬季オリンピック閉会の日、ロシア軍によるウクライナ侵攻の戦争が勃発し、世界は、新型コロナウイルス以上の課題を抱え、暗黒の状況に陥らされることとなり、世界中が、一刻も早く侵略戦争が終わることを固唾を呑んで願っているが、戦争と新型コロナウイルスの影響は当分続くものと思われ、景気の一層の落込み、原油価格の高騰、相次ぐ生活用品の値上げ等により、保護者世帯の家計も厳しい状況となる考えられる。

また、2021年の出生数は、84万2,897千人となり急激な少子化が進行しており、婚姻数が前年度より12%以上減少していることから、2022年以降は、一層

少子化が進み80万人を割り込むことが予想される。

採用状況についても、依然として厳しい状況が続いており、幼稚園教諭・保育士の養成校も生き残りをかけ学生確保に取り組んでいるが、大阪府内の殆どの養成校は、定員を確保出来ていない状況になっている。更に、受験生の多くは4年制大学指向が強くなり、幼稚園教諭の免許及び保育士資格を取得した場合でも、企業の採用意欲が強くなり、すんなりと認定こども園・幼稚園に応募することも極端に少なくなっている。

そのような状況から、当園としては、安定した事業継続を図るため、地域の少子化進行状況及び養成校はもとより、人材派遣会社等から教職員採用状況を調査・検討し、実態をしっかりと見定め、慎重に対応していくこととする。

2015年4月より子ども子育て支援新制度がスタートしたが、移行が進み、2022年度は、6割近い園が新制度に移行し、171園が私学助成で園を運営している。

当園は、私学助成を継続して園を運営しており、収入を安定させるためにも、経常費補助金の配分基準内容を十分に把握し、事務を効率化し確実に対応することとする。

自己評価については、確実に実施し公表しているが、その自己評価の内容を、学校関係者評価委員会で十分検討して頂き、別紙を別紙のとおり纏め公表に努めた。

財務状況については、事業活動収支計算書での教育活動収入計が56,132千円(前年度75,929千円)、教育活動支出計51,725千円(前年度48,709千円)、教育活動収支差額4,407千円(前年度27,219千円)、経常収支差額比率7.76%(前年度35.78%)となった。

また、人件費比率(人件費/教育活動収入計+教育活動外収入計)は、64.50%(前年度43.83%)となった。

資金繰りについては、翌年度繰越支払資金が当年度の保持すべき資金(第4号基本金)の額を相当上回る額の支払資金を保持できているので、資金繰りは問題ない。

3. 財務状況

別紙参照